

相模湾から初記録のシラヌイハゼ

Silhouettea dotui (TAKAGI), (魚類 : ハゼ科)

林 公 義 ・ 工 藤 孝 浩

Masayoshi HAYASHI and Takahiro KUDO : A new
Record of *Silhouettea dotui* (TAKAGI) from Sagami
Bay, (Pisces: Gobiidae)

神奈川県平塚市・茅ヶ崎市・藤沢市・鎌倉市沖合いの相模湾から、ハゼ科シラヌイハゼ属の1種シラヌイハゼ *Silhouettea dotui* (TAKAGI) が45個体採集された。従来、本種は青森県・新潟県*・福岡県の日本海側と長崎県の有明海からの分布記録があるにすぎず、稀種とされている(明仁親王他, 1988)。本種の相模湾における分布は初記録となるので報告する。また近年愛媛県宇和郡室手の沖合いでも本種が採集されており、本報の比較標本として検討する機会を得た。

標本の計数・計測方法は明仁親王他(1988)に従い、本種の本記載(TAKAGI, 1957)にある完模式・副模式標本もあわせて計測した。

本稿を進めるにあたり、標本を採集・寄贈いただいた神奈川県水産試験場の中村良成技師、標本の計測や文献の提供に便宜を与えていただいた宮内庁赤坂御所魚類研究室の坂本勝一・岩田明久・池田祐二総理府技官に対し深謝する。

シラヌイハゼ

Silhouettea dotui (TAKAGI), 1957

(図1-a, b, c)

材 料

YCM-P (横須賀市自然博物館魚類資料) 28873-1, 2, 2個体, (雄), 体長 41.2~42.8mm, 1991年7月24日, 神奈川県茅ヶ崎市沖, 水深15m, 底曳網, 中村良成採集。採集時の状況: 本標本は、神奈川県水産試験場が相模湾で実施している試験操業時(19tの調査船)に底曳網(網口の幅2m, 高さ30cm, 網の目合い5mmの桁網)で漁獲されたものに混獲されていた。曳網は平均

速度2ノットで、10分間行った。この調査は1991年7月24日から1992年9月28日までの間に8回実施され、平塚市沖(相模川河口西岸)・茅ヶ崎市沖(茅ヶ崎漁港西)・藤沢市沖(辻堂団地前)・鎌倉市沖(由比が浜前)の4地点で、各地点ごとに5・10・15mの3水深帯で1日合計11回の曳網が行われた。2個体の標本が採集されたあとも、調査期間中に各調査地点から総数で45個体(体長範囲は40~50mm)のシラヌイハゼが採集された(表1参照)。

比較標本: LIAIP(宮内庁赤坂御所魚類研究室)未登録, 完模式標本, (雄), 体長 29.7mm, 1951年8月17日, 佐賀県六角川(有明海), 道津喜衛採集; LIAIP未登録, 副模式標本, 1個体, (雌), 体長35.1mm, 採集記録は同前; LIAIP1980211, 1個体, (雄), 体長30.1mm, 1980年8月21日, 青森県西津軽郡車力村沖, 水深15m, 桁曳網, 青森県水産試験場採集; LIAIP1980213-2, 1個体, (雌), 体長36.7mm, 1980年9月1日, 青森県西津軽郡車力村沖, 水深5m, 桁曳網, 青森県水産試験場採集; LIAIP1985486, 1個体, (雌), 体長34.1mm, 1985年7月, 新潟県柏崎市沖, 水深10~30m, 佐藤光昭採集; LIAIP1992250-3, 4, 2個体, (雌), 体長26.3~27.2mm, 1992年5月2日, 愛媛県南宇和郡御荘町室手沖, 水深2m, 手網, 大西信弘採集。

計数計測値(表2参照)

背鰭6棘-1棘10軟条(比較標本: 6棘-1棘10~11軟条), 臀鰭1棘12軟条(1棘12軟条), 胸鰭16~17軟条(15~17軟条), 腹鰭1棘5軟条, 尾鰭分枝軟条数7+6~7=13~14, 縦列鱗数26(25~27), 横列鱗数8(8)。鰓耙数2~3+1+10~11=13~15(2+1+10=13)。背鰭担鰭骨の挿入位置は3/II II I IO/9。脊椎骨数10+15+1=26。

* 本間他(1972)によれば、新潟県境に近い山形県鶴岡市加茂町の沖合いが採集地である。

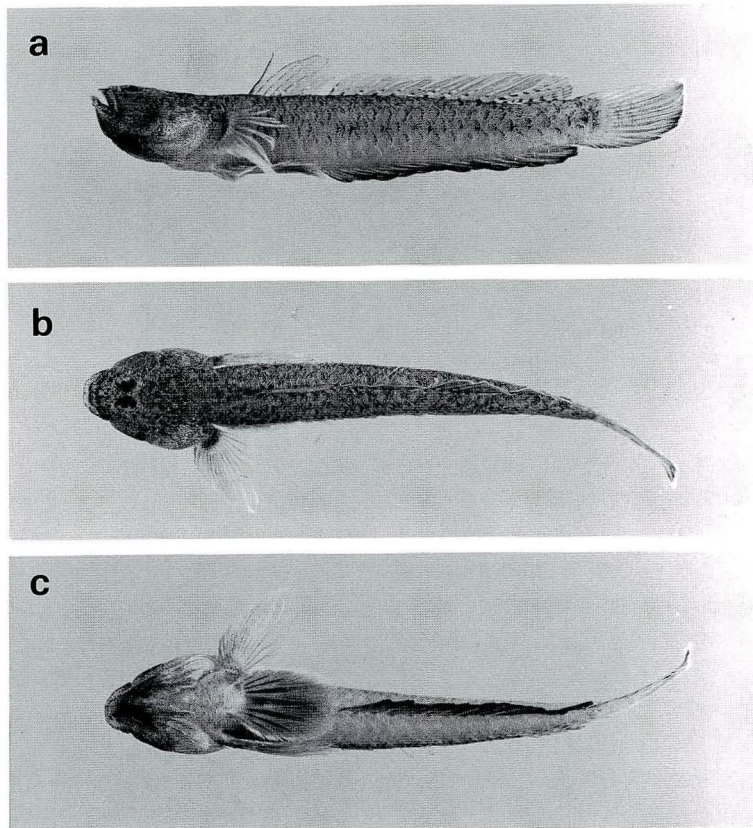


図1. シラヌイハゼ *Silhouettea dotui*, YCM-P28873-1, 雄, 体長42.8mm. a:側面, b:背面, c:腹面

表1. 調査地点, 調査日別シラヌイハゼ採集体数

調査地点 水深	平塚市沖			茅ヶ崎市沖			藤沢市沖			鎌倉市沖		
	5m	10m	15m	5m	10m	15m	5m	10m	15m	5m	10m	15m
1991. 7.24	0	0	0	0	0	2	0	*1	0	*1	0	-
1991. 8.28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
1991.10.24	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	-
1991.11.26	0	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	-
1992. 5.23	1	3	0	0	2	0	1	3	4	0	0	-
1992. 6.22	0	0	3	3	0	0	0	1	0	0	0	-
1992. 7.29	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	-
1992. 9.28	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	-
合計	1	5	6	4	2	3	6	11	5	2	0	-

* 調査は1991年7月25日に実施; - 鎌倉市沖15m水深帯では曳網せず

表2. シラヌイハゼの外部形質の計測値

標本番号	完模式 標本 TAKAGI (1957)	副模式 標本 TAKAGI (1957)	LIAIP 1980211 塩垣 (1982)	LIAIP 1980213-2 塩垣 (1982)	LIAIP 1985486 新潟県 ♀	LIAIP 1992250-4 愛媛県 ♀	LIAIP 1992250-3 愛媛県 ♀	YCM-P 28873-1 神奈川県 ♂	YCM-P 28873-2 神奈川県 ♂
背 鳍	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10	VI-1,10
臀 鳍	I,12	I,12	I,12	I,12	I,12	I,12	I,12	I,12	I,12
胸 鳍	16	17	16	16	17	15	15	17	16
縦列鱗数	26	25	26	26	27	26	26	26	26
横列鱗数	8	8	8	8	8	8	8	8	8
鰓 耙 数	2+1+10	----	----	----	----	----	----	2+1+10	3+1+11
全 長	36.9	35.1	45.7	43.7	41.8	33.0	32.7	52.9	50.5
体 長	29.7	28.9	37.7	36.7	34.1	27.2	26.3	42.8	41.2
体 高	4.2(14.1)*	4.1(14.2)	5.0(13.3)	5.2(14.2)	4.6(13.5)	3.9(14.3)	3.8(14.4)	6.4(14.9)	5.9(14.3)
頭 長	9.4(31.6)	8.0(27.7)	10.5(27.9)	9.5(25.9)	9.2(26.9)	8.0(29.4)	7.7(29.3)	11.3(26.4)	10.8(26.2)
眼 径	2.4(8.1)	2.0(6.9)	2.2(5.8)	2.2(5.9)	2.2(6.5)	2.1(7.7)	2.0(7.6)	2.8(6.5)	2.6(6.3)
両眼間隔	0.4(1.3)	0.4(1.4)	0.5(1.3)	0.5(1.4)	0.4(1.2)	0.3(1.1)	0.4(1.5)	0.6(1.4)	0.5(1.2)
吻 長	1.5(5.1)	1.3(4.5)	2.1(5.6)	1.9(5.2)	1.5(4.4)	1.4(5.1)	1.4(5.3)	2.3(5.4)	2.4(5.8)
上 顎 長	3.0(10.1)	2.7(9.3)	3.6(9.5)	3.6(9.8)	2.8(8.2)	2.4(8.8)	2.5(9.5)	3.7(8.6)	3.7(8.9)
背鳍棘長**	5.4(18.2)	4.5(15.6)	6.3(16.7)	5.9(16.1)	5.5(16.1)	4.1(15.1)	3.2(12.2)	6.5(15.2)	6.1(14.8)
腹 鳍 長	7.8(26.3)	7.1(24.6)	8.7(23.1)	9.2(25.1)	8.7(25.5)	6.8(25.0)	6.7(25.5)	9.8(22.9)	9.7(23.5)
胸 鳍 長	7.6(25.6)	6.9(23.9)	8.2(21.8)	8.8(24.0)	7.4(21.7)	6.6(24.3)	5.7(21.7)	9.7(22.7)	8.9(21.6)
尾 柄 長	4.4(14.8)	4.2(14.5)	5.8(15.4)	5.4(14.7)	4.8(14.1)	4.2(15.4)	3.9(14.8)	6.6(15.4)	5.9(14.3)
尾 柄 高	2.7(9.1)	2.6(9.0)	3.3(8.8)	3.1(8.4)	2.5(7.3)	2.5(9.2)	2.6(9.9)	3.5(8.2)	3.4(8.3)

* 体長に対する百分比； ** 第1背鳍の最長棘条長

体長に対する百分率は、全長122.6~123.5%，以下同様、頭長26.2~26.4（比較標本値：25.9~31.6）、吻端・背鳍起部間距離30.8~33.0、吻端・臀鳍起部間距離48.8~49.8、尾柄長14.3~15.4（14.1~16.6）、体高14.3~14.9（13.5~14.9）。頭長に対する百分率は、眼径24.1~24.8（23.2~26.3）、吻長20.4~22.2（16.0~22.1）、上顎長32.7~34.3（30.1~37.9）。尾柄長に対する尾柄高の百分率は53.0~57.6（52.1~66.7）。

体 色

固定直後の体色（YCM-P28873-1・雄）は、頭部・背部と体側が淡褐色で、腹部は淡灰色。狭部と胸鳍から腹鳍基部にかけては淡黄色。頭部全体に小さな暗褐色色素胞が多く散在する。背部から体側にある鱗の外縁付近にも暗褐色色素胞が横列状にあり、全体として波状模様となる。各鳍は淡灰色でやや不透明。臀鳍は鳍膜の下3分の2が暗褐色。背・尾・臀鳍の外縁はわずかに白色。背鳍各鳍条の基底付近には暗褐色斑が2~3個あり、それぞれが細い縦列状に並ぶ。特に第1背鳍の第1棘と第2背鳍軟条では顕著である。胸鳍基部は全体に暗色で、その外側は三日月状に淡黄色である。

備 考

シラヌイハゼは、TAKAGI(1957)により有明海（佐賀県六角川の汽水域）を模式産地として *Ctenogobius* GILL (1958) 属の1新種として記載された。TAKAGI (1957) は *Ctenogobius*・*Rhinogobius*・*Acentrogobius* の3属の頭部感覚管系を検討し、前眼肩甲管の開孔状態と両眼間隔の特徴からシラヌイハゼを *Ctenogobius* 属に置いた。明仁親王他（1988）の初版(1984年版)で、著者のひとり吉野は本種の属名を *Ctenogobius* から *Silhouettea* SMITH, 1959 に変更し、シラヌイハゼ属を提唱した。本属は主に熱帯インド-太平洋に分布するとされ、LARSON and MILLER (1986) や MILLER (1987) によれば約8種が知られている。日本沿岸に分布するシラヌイハゼ属は3種で、本種を除き他の2種は琉球列島以南に分布する。

主に内湾や汽水域の浅瀬（干潟にもみられる）の砂底に生息しており、道津（1958）によれば佐賀県（有明海）では干潟上の水深10~20cm位の潮だまり内で、福岡県沿岸では水深5~10mの砂底から底曳網によって採集されている。山形県の加茂沖（本間他, 1972）では水深27mの砂泥地から採集されているが、比較標

本や相模湾での生息水深もあわせて検討すると、本種の生息深度は1~30m付近までと幅があり、底質は主に砂地であることがわかる。シラヌイハゼの生態と生活史については道津(1958)に詳細な報告がある。

外部形態の特徴についてはTAKAGI(1957)の原記載や明仁親王他(1988;吉野哲夫担当)と一致した。従来横列鱗数については7枚と記載されているが、模式標本も含めて今回再計測した全ての標本では8枚であった(MILLER,1988によれば横列鱗数は7~9枚)。また鰓耙数は、2個体の中でも2~3+1+10~11=13~15と変異がみられた(完模式標本では2+1+10=13)。道津(1958)は、本種の二次性徴として泌尿生殖孔突起の形状の差をあげているが、今回計測した形質の中では上顎長にも雌雄差(雄のほうが雌より長い)が認められた(表2参照)。

文 献

明仁親王・林 公義・吉野哲夫・島田和彦・山本隆司
・瀬能 宏, 1988. ハゼ亜目. in 益田 一・
尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編.
日本産魚類大図鑑, 和文版. 東海大学出版会,
東京, pp.228-276, pls.235-258, 353-355.

道津喜衛, 1958. シラヌイハゼの生態・生活史. 九州
大学農学部学芸雑誌, 16 : 427-432.

本間義治・水沢六郎・沖山宗雄, 1972. 新潟県魚類目
録補訂(IX). 日本生物地理学会会報, 28 : 47
- 57.

LARSON, H.K. and MILLER, P.J., 1986. Two
new species of *Silhouettea* (Gobiidae)
from Northern Australia. *Jap. Jour.
Ichthyol.*, 33 : 110-118.

MILLER, P.J., 1987. Studies on *Silhouettea*
SMITH 1959 and an account of *Ebome
gobius* HERRE 1946 (Pisces: Gobiidae).
Senckenbergiana biol., 68 : 241-273.

塩垣 優, 1982. 青森県産魚類目録. 青森県水産試験
場報告, 昭和57年 : 1 - 36.

TAKAGI, K., 1957. Descriptions of some new
gobioid fishes of Japan, with a pro-
potion on the sensory line system as
a taxonomic character. *Jour. Tokyo
Univ. Fish.*, 43 : 126, 2 pls..

(林 公義: 横須賀市自然博物館, 工藤孝浩: 神奈
川県農政部水産課)